

# Career Cruising

キャリア・クルージング

キャリアとは「旅」である。人は誰もが人生という名の旅をする。  
人の数だけ旅があるが、いい旅には共通する何かがある。その何かを探すため、  
各界で活躍する「よき旅人」たちが辿ってきた航路を論考する。



音楽で人と人をつなぎ、  
国境を越えていく

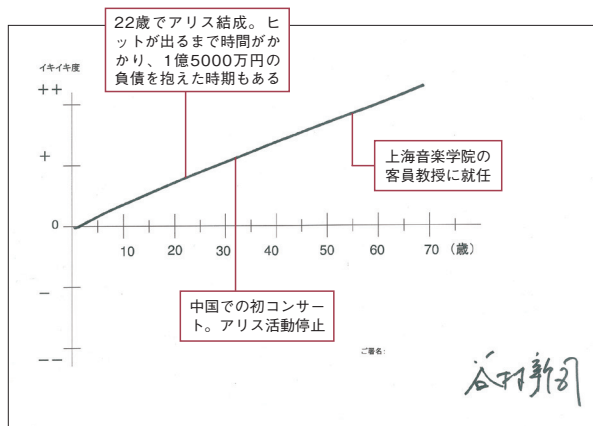
**谷村新司氏** Tanimura Shinji

音楽家／上海音楽学院名誉教授／東京音楽大学客員教授

Career History

谷村新司の  
キャリアヒストリー

1948年	0歳	大阪府出身。邦楽を好む一家に生まれ、小学生にして祇園でお座敷遊びを経験。母や姉の趣味で、家には常に三味線の音が流れていた
1962年	13歳	「女の子にモテたくて」ギターに夢中に。高校時代にアマチュアバンドを結成し、大学入学後も活動。ライブでのトークが評判となり、関西の人気ラジオ番組「ヤングタウン」のDJに抜擢される
1970年	21歳	大阪万博のイベントに出演し、後にアリスの所属事務所社長となる細川健氏と出会う。細川氏の誘いで北米コンサートツアーに参加
1971年	23歳	堀内孝雄氏とアリスを結成。翌年には矢沢透氏も加入しレコードデビュー。1974年からソロ活動も始める
1978年	29歳	「チャンピオン」が大ヒット。1980年にはソロで発表した「昴」が60万枚を売り上げるヒットに
1981年	32歳	アリス活動停止（2001年活動再開）。停止直前に行った北京コンサートをきっかけに、アジアでの活動も活発化
2003年	55歳	上海音楽学院の客員教授に就任（現在は名誉教授）
2007年	58歳	カルチャープログラム「ココロの学校」をスタートさせる
2011年	62歳	東京音楽大学の客員教授に就任。同大学にソングライティングコース新設
2012年	63歳	アーティスト活動40周年を記念し、音楽の原点となる神戸ワールド記念ホールで、コンサートを開催。日中国交正常化40周年を記念して東京、北京、上海でコンサートを開催予定



直筆の人生グラフ。「自分にしかないものを追求するのが、僕にとっての幸せ。常に前向き、上昇志向なので、下の感覚がないんです」と谷村氏。

バンド「アリス」のほかソロでも活躍し、「いい日旅立ち」「昴」「サライ」など名曲の数々を世に出してきた谷村新司氏。日本を代表するアーティストとして押しも押されぬ存在だが、1980年代からは中国をはじめアジア各地で音楽活動を続けており、国外にもファンが多い。

世界中の人たちに感動してもらえる  
音楽を届けるのが自分の役目

谷村氏が外国人の前で初めて歌ったのは、アマチュアバンドで出場した大阪万博（1970年）。言葉の通じない人たちが立ち上がって拍手してくれた瞬間、音楽の持つ力の大きさに心を打たれた。その会場で知り合った細川健氏（後の「アリス」の所属事務所社長）の旗振りで、40日間の北米コンサートツアーへ。帰国後、プロになることを決め、アリスを結成した。

「北米では資金面でのトラブルもありましたが、現地では出会った人たちに助けられて無事ツアーを終えました。その恩返しとして、世界中の人たちに感動してもらえる音楽を届けるのが自分の役割だと思ったんです」

デビュー当初は鳴かず飛ばず。活動資金をまかなうため、事務所が海外アーティストを招聘してコンサートを開くなど打開策を講じたが、失敗して1億5000万円の負債を抱えた。返済には7年かかっている。

「大変でしたが、苦ではなかった。仲間と夢を実現するための借金。お金はなくなるとも意気軒昂としていました」

足で稼ごうと全国各地でライブ活動を地道に行い、最も多かった1976年には303回を記録。ヒット曲こそないものの、ライブは常に盛況で、自分たちの音楽を奏で、観客と一体化する喜びを感じていた。

人気に火がついたのは、デビュー7年目。「冬の稲妻」「チャンピオン」などの大ヒットで多額の印税を手にしたが、谷村氏が浮き足立つことはなかった。流行れば廃れる。本当にやりたい音楽を続けるためには、ブームから計画的に降りなければと考えていたのだ。それが、やがてアリスの活動停止につながっていく。

「僕がお金に振り回されることがなかったのは、お金よりも人とつながる喜びのほうが大事だと知っていたから。この価値観は、事業が苦しくてもおくびにも出さず僕たちに何不自由ない生活をさせ、家族が喜ぶ顔を見て笑っていた父の影響が大きいかもしれません」

アジアに目を向けはじめたのは、1981年に北京で行

われ、中国でもアリスが大きな反響を呼んだ日中国交正常化10周年記念コンサートがきっかけ。アリスの活動を停止し、ソロ活動に比重を移す直前だった。

「このとき、通訳の学生さんに『日本はどうしてアジアに背を向けるのですか?』と尋ねられ、目が開かれる思いでした。かつて日本はアジアと深く交流してきたのに、戦後の日本人は欧米にばかり意識を向けてきた。僕もそうでしたが、これからは音楽でアジアの人々をつないでいきたい。それが、自分に与えられた役割の1つだと考えるようになりました」

### アジアで活動を始めた1980年代。 周囲の反応は冷ややかだった

音楽でアジアとの友好をはかろうと、韓国のチョー・ヨンピル氏、香港のアラン・タム氏と協力して音楽プロジェクト「PAX MUSICA (パックス・ムジカ)」を始動し、1984年の後樂園球場を皮切りにアジア各地でコンサートを毎年開催した。だが、当初はアジアとの文化交流に関心を持つ人が少なく、周囲の反応は冷ややかだった。

「『アジアってそんなに儲かるの?』と聞いてくる人もいましたが、儲かるどころか、1回開催するごとに1000万円の赤字です。ただ、それは覚悟の上でした。僕にはファンのみなさんからお預かりした印税などの収入があり、音楽でお預かりしたお金は音楽でお返ししたいと思っていたのです」

また、アジアで谷村氏が目指したのは、自らの音楽を届けることのみならず、後進の日本人アーティストが活動しやすい土壌を作ること。日本で音楽に夢を持って仕事をしている人たちの精神をアジア各地に伝えるため、コンサートを開くときにはできるだけ現地でスタッフを集め、機材も現地で調達した。

「海外でコンサートをする場合、当時は日本で組んだユニットを持ち込むのが常でした。確かに、そのほうが効率やクオリティは高くなるかもしれませんが。でも、現地の人と一緒に作れば、国境を超えた絆が生まれ、仲間ができます。僕が国外で活動する意味はそこにあるのです」

### 360度の可能性を信じ、 1つの色にとらわれずに生きる

2012年にはアーティスト活動40周年を迎えた。アジアで活動を始めてからも30年がたち、今や各国で名を知られた存在だ。とくに中国での活躍はめざましく、2010年の上海万博ではアジア大陸代表歌手として「昴」を熱唱。同曲が中国のヒットチャートをにぎわせた。国立大学・上海音楽学院の教授を務めるなど中国の若手音楽家の育成にも尽力している。谷村氏が中国の人たちからこれほどまでに信頼を寄せられているのはなぜだろう。

「僕がお金儲けのために音楽をやっているのではないということが伝わったんだと思います。利益優先で仕事をしたら、収益次第で人の縁は切れてしまう。でも、人と

人がつながっていれば、簡単に縁が切れることはありません。大事なのは人の心だと再認識しました」

アリスは活動停止期間を置きながらも長く活動しているが、その理由も「メンバーの心と心がつながっているから」と谷村氏。ただ、無理につながりを持ち続けようとは考えていない。「つながらなければ」と形にとらわれれば、本当にやりたいことを見失ってしまうと考えるからだ。

「僕は、55歳のとき、型にはまっている自分に気づきました。それで、すべての活動を一度やめたんです」

自分を空っぽにすると、『何でもできる』という気持ちが湧いてきた。上海音楽学院から教授として招かれたのはそのタイミング。「天命」と感じて依頼に応えた。

「そこから新たな道が開け、音による生涯教育を実践するカルチャープログラム『ココロの学校』などの活動にもつながりました。肩書きや形から離れれば、人は360度の可能性を発揮できる。今後も1つの色にはとらわれたくないですね」



2012年9月19日に発売された「NINE」(DAO)。素敵な音楽仲間(ナイン)とコラボレーションした究極の9曲とスペシャルトラック1曲を収録している。



## 右肩上がり一直線の 谷村新司的生涯プロフェッショナル人生

大久保幸夫 ワークス研究所 所長

アーティスト活動40周年を迎えた谷村氏だが、まったく枯れた感がない。私は、谷村氏の「セイ!ヤング」(文化放送)を高校生のときに聴いていたが、その頃のイメージと変わらないのだ。アグレッシブで、個性的で、若々しい。

1つの分野でプロとして活躍する人は、右下の図にもあるように、経験年数20年頃にアウトプットのピークを迎えて、その後生産性は減っていくものである。しかし、谷村氏は40年を迎えてなお、次々に新しい音楽や活動に取り組み、止まることがない。なぜだろうか？

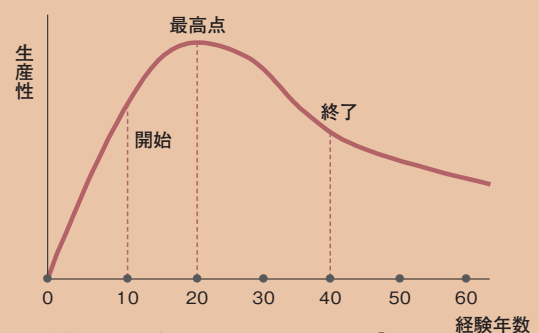
ふと思い出したのは、江戸時代の画家・葛飾北斎のキャリアである。北斎は19歳で入門してから90歳で他界するまで、生涯にわたって今に残る作品を生み出し続けた。北斎漫画で海外にも大きな影響を与え、後に画法も名も捨てて富嶽三十六景を完成させて、一世を風靡するが、その後また画法も名も捨てて現在のアニメに通じる肉筆画の作品群を残している。また、北斎は大の引越好きでもある。これまでに積み上げたものを守るのではなく、むしろポンと捨てて、きれいな体で次の新しい挑戦をしていくのである。

谷村氏にも同じ匂いを感じる。病気をしたときはそれを転機と考えて、一切の活動をやめ、事務所もファンクラブも閉じた。そこへ中国から大学教授の依頼が来た。「もしもライブ活動などをそれまで通りやっていたら、依頼は受けられなかっただろう」と、谷村氏は言う。「呼

吸という言葉があるでしょ？ その言葉通り、まず息を吐いて、それから吸うんです。息を吐かないと新しい空気は吸えない。それと同じ」(谷村氏)。自らを空にすることで、次の挑戦に全力で向き合うことを繰り返してきたからこそ、40年を過ぎてても下り坂になることなく、さらに音楽の道を究めていけるのではないだろうか。ついでながら、谷村氏も大の引越しマニアである。

北斎は海外の画家に影響を与え、そして現在のアニメにも影響を与えた人物として、国内外から賞賛を集めている。谷村氏も、中国をはじめ海外で彼の影響を受けている音楽家が多いが、いつか北斎のように、アジアで最も影響を与えた音楽家と呼ばれるようになるのではないか。「音楽界の北斎」に、ぜひなってほしいと思う。

サイモントン (D.K.Simonton) による  
経験年数と生産性の関係



谷村氏にこのグラフをお見せしたところ、「ビジネスマンならわかるけど、アーティストがこの曲線のようななら、それは本当のアーティストじゃないと思う」との返事だった。「自分にしかないものを追求する」のがアーティストなので、下がることはないのだという。